

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(小学校用)

都道府県名	大分県
-------	-----

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	玖珠町立 森中央小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	2	2	2	2	2	2	1	13	23
児童数	50	63	59	69	53	49	1	344	

研究の概要

1. 研究主題

自ら学び、自ら考え、自ら活動する姿を求めて
 —— 個に応じた指導方法、指導体制の工夫改善を通して、子どもたちが
 意欲的に取り組み、理解を深める算数が授業の在り方を求めて ——

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

全学年・算数
 児童の理解の状況に差が出やすい教科、学年であるため。
 学校として、当該教科に関する研究実績があるため

(2) 年次ごとの計画

平成 14 年度	<p>研究仮説 子どもたち一人ひとりに確かな学力をつけるため、指導体制と指導方法の工夫改善をはかり、きめ細かな指導をすれば、意欲的に取り組み、理解を深めるであろう。</p> <p>研究の内容・方法 算数科において、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちが多様な考えを出すことができる素材の工夫。 ・一人ひとりが自分の考えをもつことができる場の保障。 ・互いの考えのよさを認め合うことのできる場の工夫。 ・指導方法・指導体制の工夫改善。 <p>の研究に取り組み、特に指導方法・指導体制の工夫による「きめ細かな指導」に重点を置き、子どもたちが「確かな学力」をつけるために、「TT指導」・少人数指導を中心に研究に取り組んだ。 児童一人ひとりに応じたきめ細かな指導をしていくために、必要な段階(3つのステップ)を次のように考えた。</p>		
	<table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td style="width: 33%;">1 子どもをとらえる (みづめ、つかみ)</td> <td style="width: 33%;">2 子どもによりそう (確かめて指導し)</td> <td style="width: 33%;">3 子どもとふりかえる (伸ばし、評価する)</td> </tr> </table>	1 子どもをとらえる (みづめ、つかみ)	2 子どもによりそう (確かめて指導し)
1 子どもをとらえる (みづめ、つかみ)	2 子どもによりそう (確かめて指導し)	3 子どもとふりかえる (伸ばし、評価する)	

平成 15 年度	<p>研究仮説 子どもたち一人ひとりに確かな学力をつけるため、指導体制と指導方法の工夫改善をはかり、きめ細かな指導をすれば、意欲的に取り組み、理解を深めるであろう。</p> <p>研究の内容・方法 算数科において、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちが多様な考えを出すことができる素材の工夫。 ・一人ひとりが自分の考えをもつことができる場の保障。 ・互いの考えのよさを認め合うことのできる場の工夫。 ・指導方法・指導体制の工夫改善。 <p>の研究に取り組み、特に指導方法・指導体制の工夫による「きめ細かな指</p>
----------------	---

導」に重点を置き、子どもたちが「確かな学力」をつけるために、TT指導・少人数指導を中心に研究に取り組んだ。
 児童一人ひとりに応じたきめ細かな指導をしていくために、必要な段階（3つのステップ）を次のように考えた。

1 子どもをとらえる
 （みつめ、つかみ）

2 子どもによりそう
 （確かめて指導し）

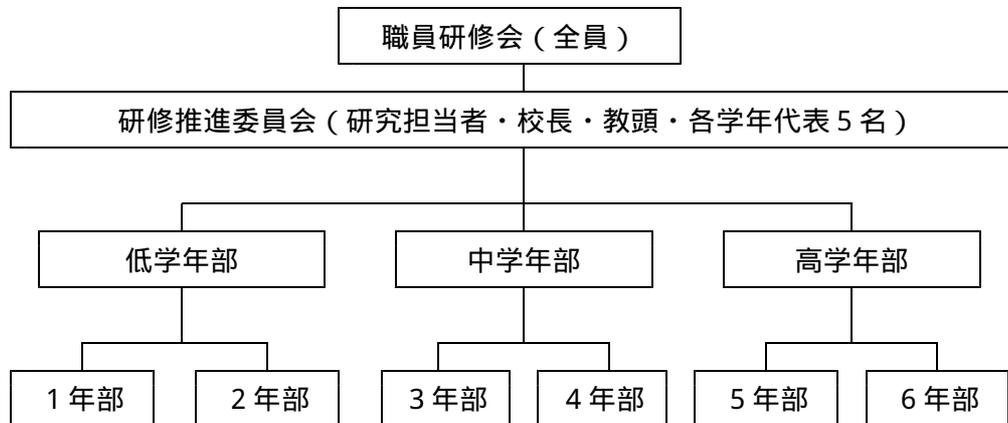
3 子どもとふりかえる
 （伸ばし、評価する）

平成
16
年度

平成14年度・15年度に引き続き研究を行う。

(3) 研究推進体制

- (1) 算数科少人数指導のための職員体制
 担任外の教員が7名配置されているので、1学年を、2クラスの担任と学年部付きの教員合わせて3人(4年生は4人)で指導する。
 算数科の時間は1つの学級を2人(4年生は3人)で指導できるように1組と2組は算数の時間割をずして日課表を作成する。
 学年を3つのグループに分ける場合は、2つの学級で同じ時間に算数ができるように日課表を組みかえる。
- (2) 研究組織について
 それぞれ校内研を推進していく組織として推進委員会をつくるメンバーは各学年より1名選出して研究担当者・教頭・校長がこれに加わる。推進委員は、全体研究への提案内容の提案と各学年研究の推進担当となる。



平成15年度の研究の成果及び今後の課題

1. 研究の成果

昨年度校内研究推進委員会や校内研で「きめ細かな指導」について議論をしていく中で、3つのステップとそれぞれのステップのキャッチフレーズが考え出された。それが「子どもをとらえる」「子どもによりそう」「子どもとふりかえる」というものである。指導案の中にある「児童について」「指導について」「評価について」をより平易に表現しただけでなく、内容についても指導方法や指導体制も考慮に入れながら実践を行ってきた。
 「子どもをとらえる」には、レディネス調査などをして、子ども自身をとらえることはもちろんのこと、教材分析や単元のつながり、内容の入れ替えなど、教材をとらえることや、子どもへのよりそい方などの指導方法をとらえることも含まれている。「子どもによりそう」は指導体制の工夫

をメインに少人数制指導のいろんなパターンを試みた。子どもと「ふりかえる」では自己評価カード「みつメール」の活用や座席カルテなどの作成を行った。3つのステップを意識する中で、視点を明確にもち、全教職員一体となって研究や交流を行うことができた。

学年3人(今年度4年部は4人)体制を4月に決めてスタートできたこととは、算数だけでなく、学年経営に大きな意味があったと思う。学年部で子どもたちを指導していくという気持ちで活動や学習に取り組むことができた。

コ・ス別の学習が子どもの中でも定着していき、コ・ス選択なども自分で決める子どもが増えてきた。また少人数の中での学習で、発表が増えたり、質問をしたりといった意欲的に算数に取り組む子どもが多くなった。特に今まで、算数を苦手と思っていた子どもたちが、満足感を持っているように感じる。少人数学習のよさが表れているようである。

授業について、学年部で話し合いをもったり、授業を見合ったりすること、目に見えないものだが、得ているものは大きいと感じる。子どもに対する言葉かけ、評価の仕方、板書など、教職員同志の学習になり、それが子どもたちへも還元されている。

それぞれの学年で、取り組みを続け、校内研の中で実践を持ち寄る中で、教職員集団での研究組織の確立や研究への意識の高まりができてきている。

1単位時間の中での授業の組み立てや素材の工夫をしたり、指導案に子どもによりそう内容をよりわかりやすく組み込み込んだり、コースによってヒントカードを活用したり、具体物や半具体物の活用を積極的に取り入れたりすることが、子どもたちの算数の興味や関心の向上につながり、算数好きの子どもがふえてきている要因になっているようである。

例えばじっくりコースとたっぴりコースに別れても、どちらのコースでも子どもによりそう場面があり、ヒントカードや具体物・半具体物の提示、子どもの困りに対応する言葉かけなどが実践を通して明らかになった。そのような取り組みを通して、特に「みつメール」などの自己評価や、座席カルテなどの分析から授業に意欲的に臨んでいる子どもたちが増えてきているとらえている。

まだ不十分な面はあるが、教室(少人数の時)の整備が少しずつできていった。

2. 今後の課題

指導体制について、コ・ス別・グル・ブ別での指導方法について、研究を深めていく必要がある。例えば、それぞれのコースでの学び方をどう変えていくのか、どのような指導方法が、子どもにとってよりよい学びの場となるのかを、考えていくことが必要となる。

学習過程の組み方の工夫の中で、「よりそう」という手だてをとってきたが、今後さらに綿密によりそう必要性がある。

指導方法や指導体制の工夫改善に取り組む中で、大変なのは時間の確保である。本校は学年3人体制でA型、B型、C型、D型の指導体制を単元や内容、子どもの実態に応じて選択している。1C2Tや2C3Tの時は事前の打ち合わせが必要不可欠であるが、その時間をじっくり持つことがなかなかできない。短い時間の打ち合わせで、消化不良を感じながら授業に臨むこともある。

今後の解決の方法としては、行事の精選を行う。放課後の時間の確保や教職員が増え、専科の時間が増えることで打ち合わせの時間を確保し、時間割りや週時程表の中にいちづけていく。また打ち合わせの時間が少なくてもいいような工夫も必要である。解決できるところから改善していかなければならないと考えている。

3つのステップの内容を、今後効果を確かめていったり、関連を図ったりして、深めていくことが必要である。

学力等把握のための学校としての取組

児童の学習状況の変容を捉えるために、毎年2月下旬、標準学力テスト実施。

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

平成15年11月18日(火)公開研究発表会実施

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- 【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校
- 【学校規模】 6学級以下 7～12学級
 13～18学級 19～24学級
 25学級以上
- 【指導体制】 少人数指導 T・Tによる指導
 一部教科担任制 その他
- 【研究教科】 国語 社会 算数 理科
 生活 音楽 図画工作 家庭
 体育 その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無